



## 趣旨説明\_総論

佐藤, 知生

---

**(Citation)**

オンラインフォーラム『ILL/DD サービス 2.0 へ向けて』（令和 4 年度国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業）

**(Issue Date)**

2023-01-27

**(Resource Type)**

conference object

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100478596>



Online Forum

『ILL/DDサービス2.0へ向けて』

# 趣旨説明\_総論

神戸大学附属図書館情報サービス課

佐藤知生

# 自己紹介

---

- 大学図書館業界9年目（神戸大学は8年目）
- 受入業務に従事した1年を除きフロントオフィス中心の経験
- これからの学術情報システム構築検討委員会（システムワークフロー検討作業部会）にR4年度から参加し、ILLの機能要件等の調査・検討に携わる
- 本フォーラムの企画提案

# はじめに -用語の摺り合わせ-

---

- 『ILL/DD (Interlibrary Loan and Document Delivery) サービス』

一般的に利用者が直接依頼した文献を利用者に直送するサービスとILLサービスを合わせたものをさす。本フォーラムでは、媒体や経路を問わず民間サービスによる文献配送はDDサービスとして扱う。

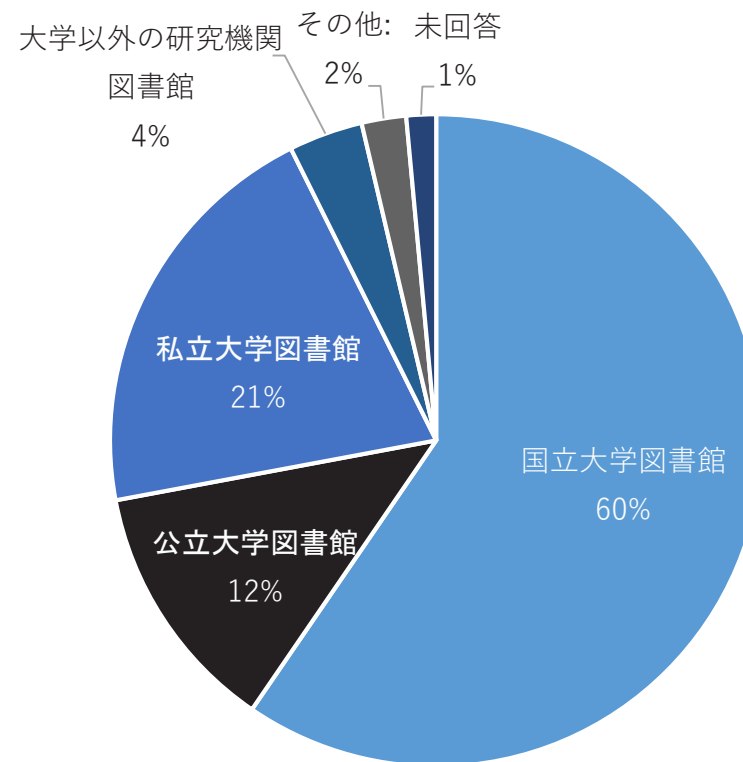
- 『ILL (Interlibrary Loan) : 図書館間相互貸借』

「文献複写」、「現物貸借」、「訪問利用」を含む用語であるが、特に言及がない限り本フォーラムでは「文献複写」を指す。

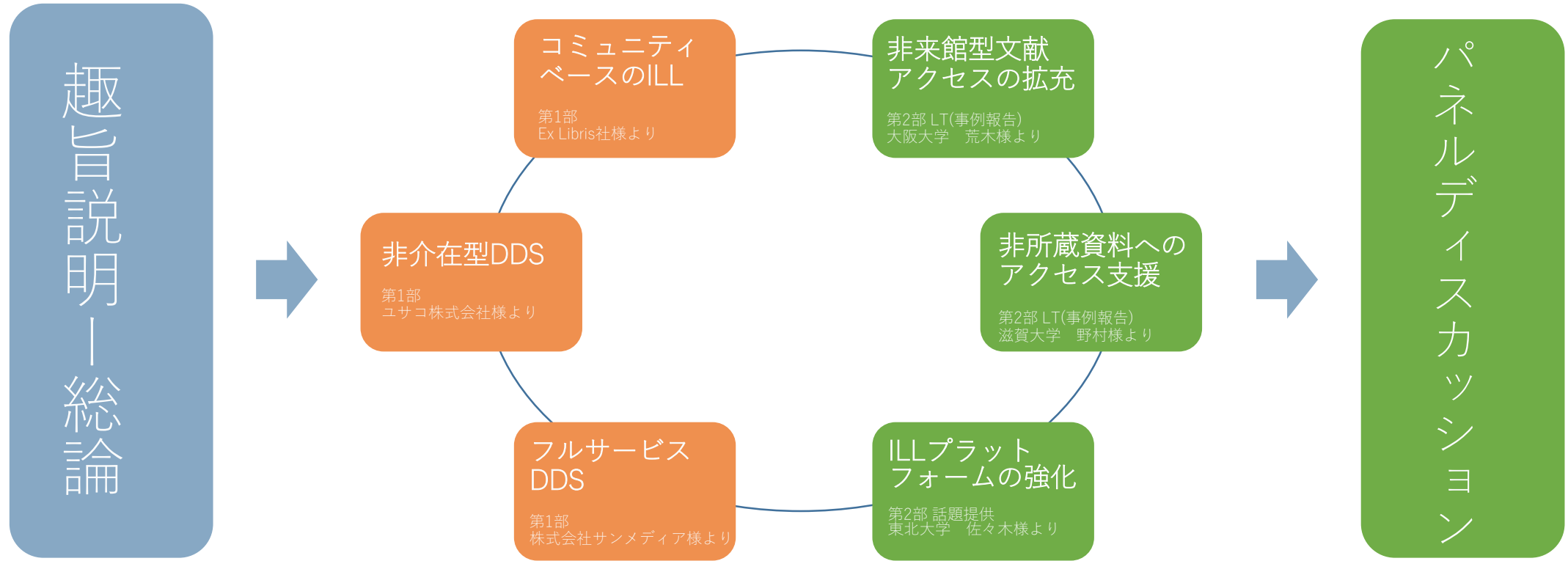
# はじめに -事前アンケート協力の御礼-

- 集計期間：2023/1/12-2023/1/24
- 総回答数：136
- 回答者属性

本趣旨説明と第2部のパネルディスカッションにて一部取り上げます。



# 本フォーラムの流れ



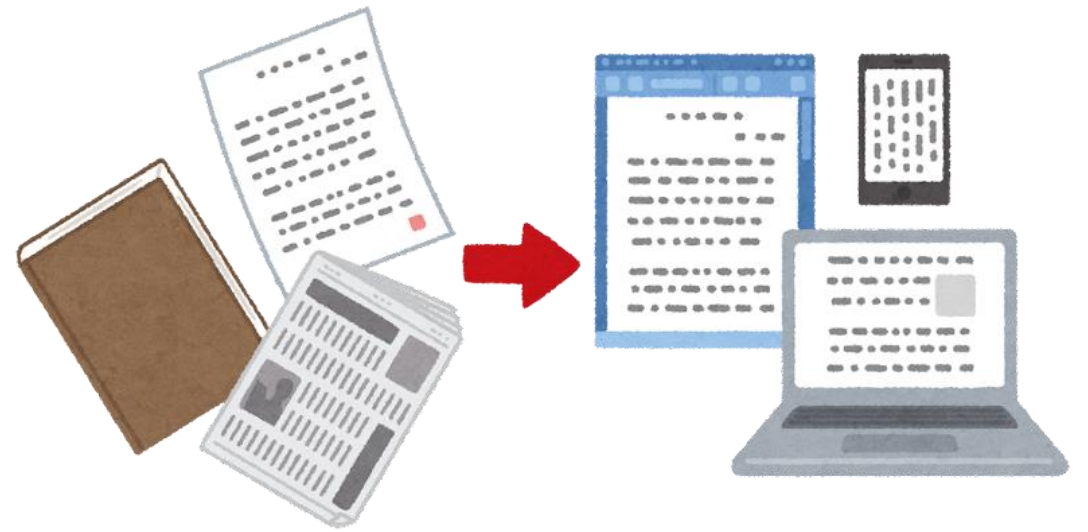
# 本フォーラムの流れ

# ILL/DDサービス最適化のための3要素

- Save Users Time  
利用者がアクセスするための時間を減らす
- Save Users Money  
利用者がアクセスするための費用を減らす
- Reduce Staff Effort  
職員の労力を減らす







# 1. 公衆送信サービス

# 資料提供の近代化 -1.公衆送信サービス

---

- 図書館による公衆送信に関わる著作権法改正の開始

<背景>

(長年の課題)

デジタル化・ネットワーク化に十分対応できない部分がある

(近年の課題)

非常時に図書館資料へのアクセスが著しく難しくなることがコロナ禍を契機に広く認知される

# 資料提供の近代化？ -1.公衆送信サービス

---

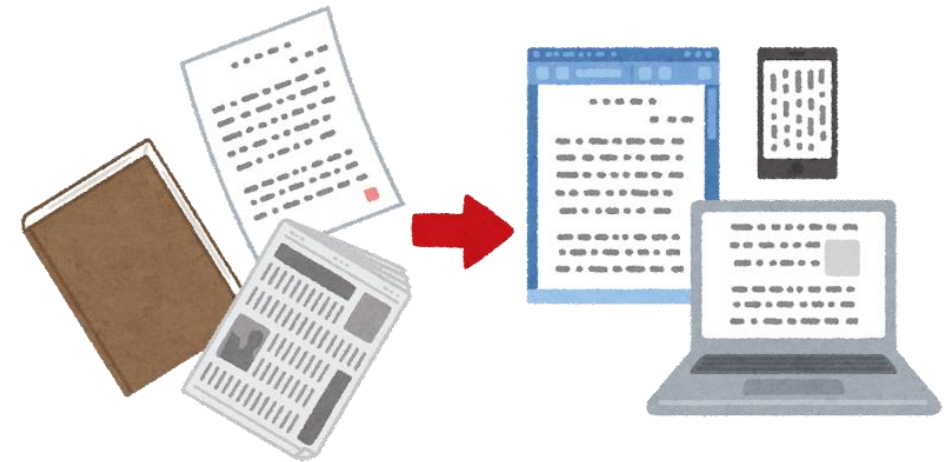
## < 課題 >

- 事務負担が大きい  
(特定図書館への登録、スタッフ研修、補償金管理、決済方法の拡充、学内規定の見直し、漏洩防止措置への対応、…etc.)
- 補償金が高額
- **ILLへの適用が想定されていない（現状）**

# 公衆送信のコストと意義 -1.公衆送信サービス

- (メリット1) **電子媒体で入手できる**  
→モバイル端末での撮影やスキャナで私的に変換は可能。  
→スキャナは、コンビニで30円/枚程度で利用可能。

- (メリット2) **非来館で入手できる**



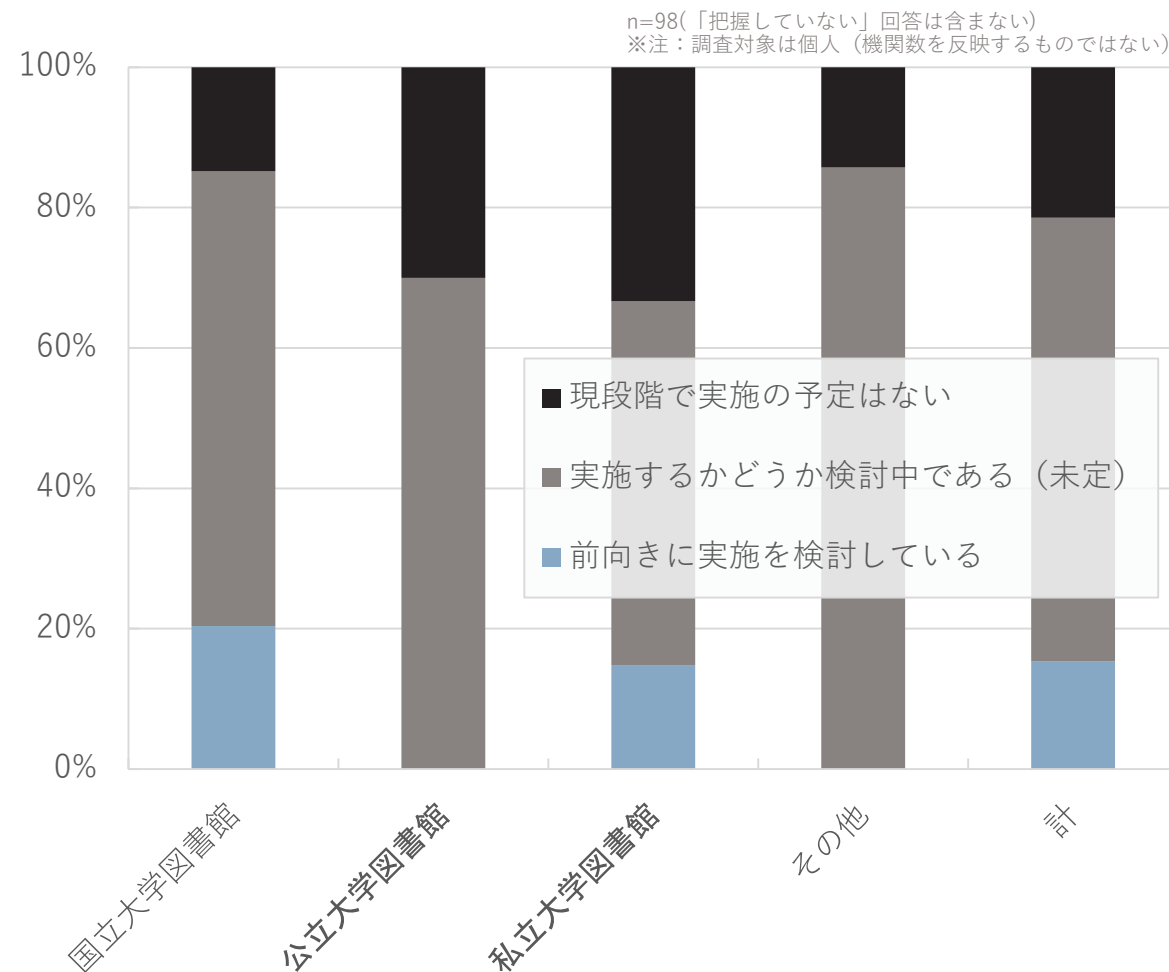
# 館種によるアクセス性の違い -1.公衆送信サービス

	国会図書館	公共図書館	大学図書館
立地	2都市（東京/京都）のみ	各自治体	各大学構内
図書館施設へのアクセス性	×	○	◎
郵送複写サービスの実施状況	遠隔複写サービスを実施	都道府県立は100%実施 (※)	実施館は3割に満たない (※)
	国民全体がサービス対象となるが施設へアクセスできるのは主に都市部在住者。	自治体内でも住居の立地や生活圏によってアクセス性が異なる。	日常的に通学・通勤するキャンパス内にあるため、アクセス性は概して高い。

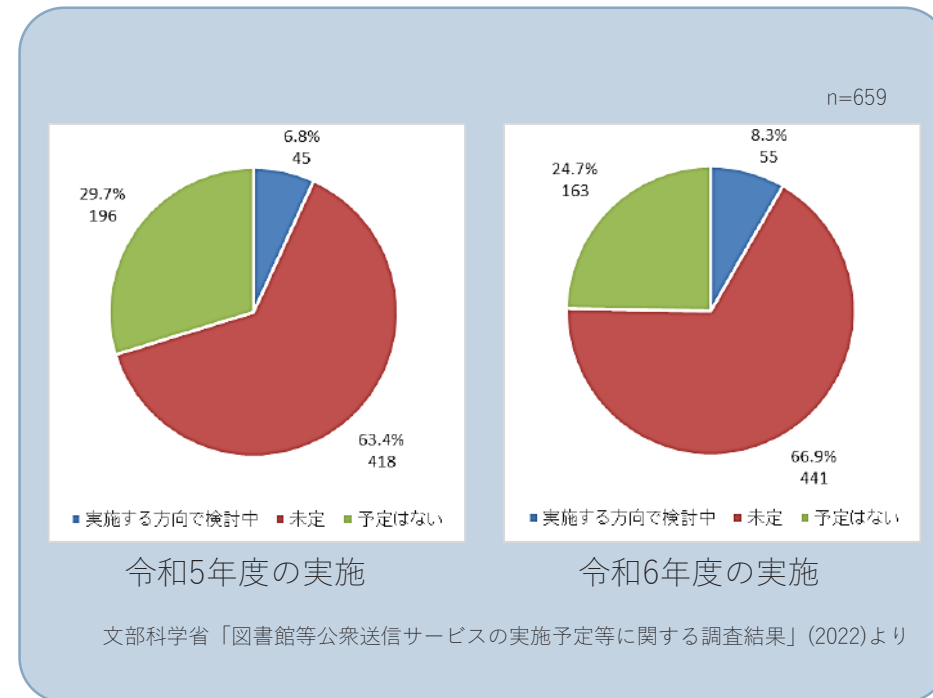
(※) 文部科学省「図書館等公衆送信サービスの実施予定等に関する調査結果」(2022)より

- 大学図書館は、サービス対象者の施設アクセス性が高い。  
→数千円の補償金を負担してまで自機関所蔵資料について公衆送信を望むニーズがどこまであるか？

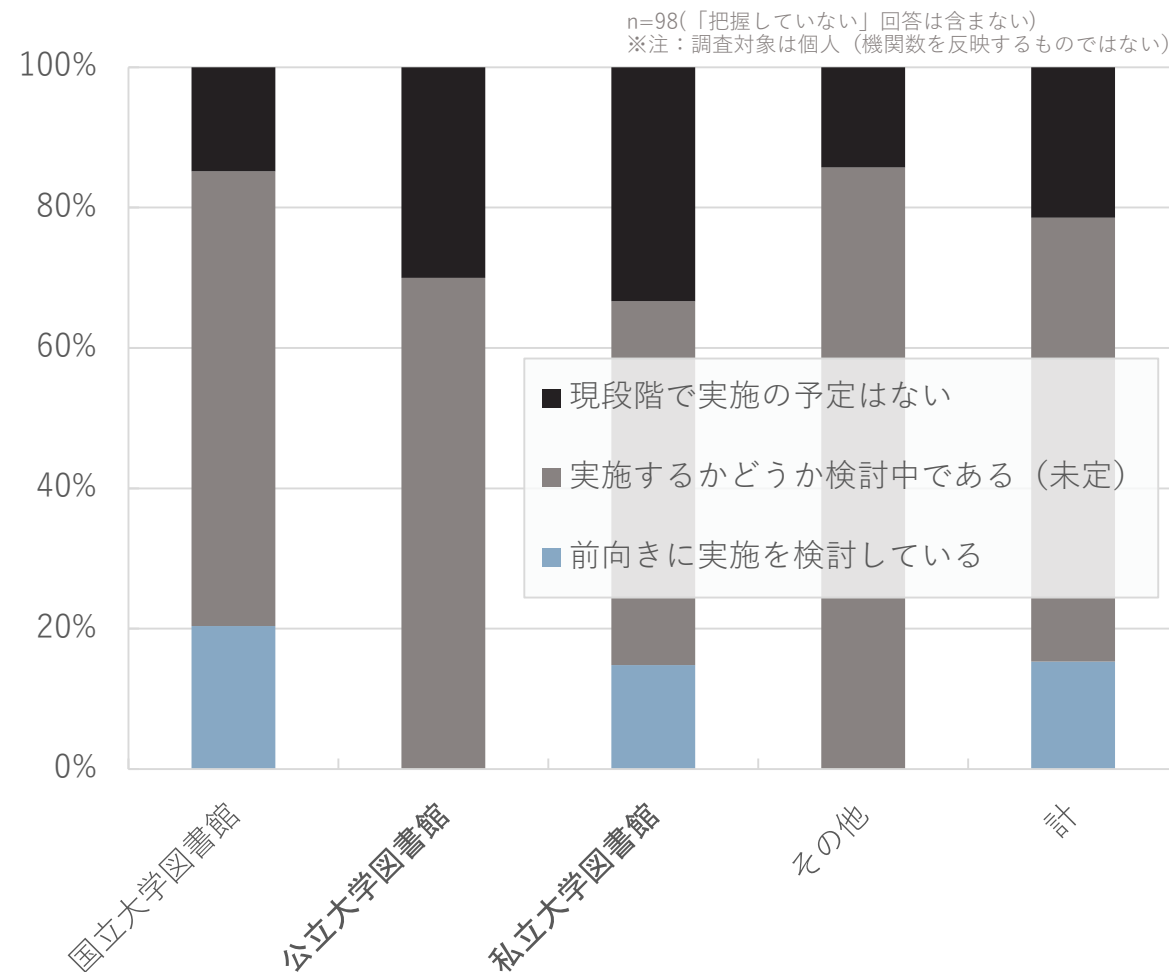
# 導入の検討状況 -1.公衆送信サービス



## 【参考】 機関レベルでの調査 (2022年6月)



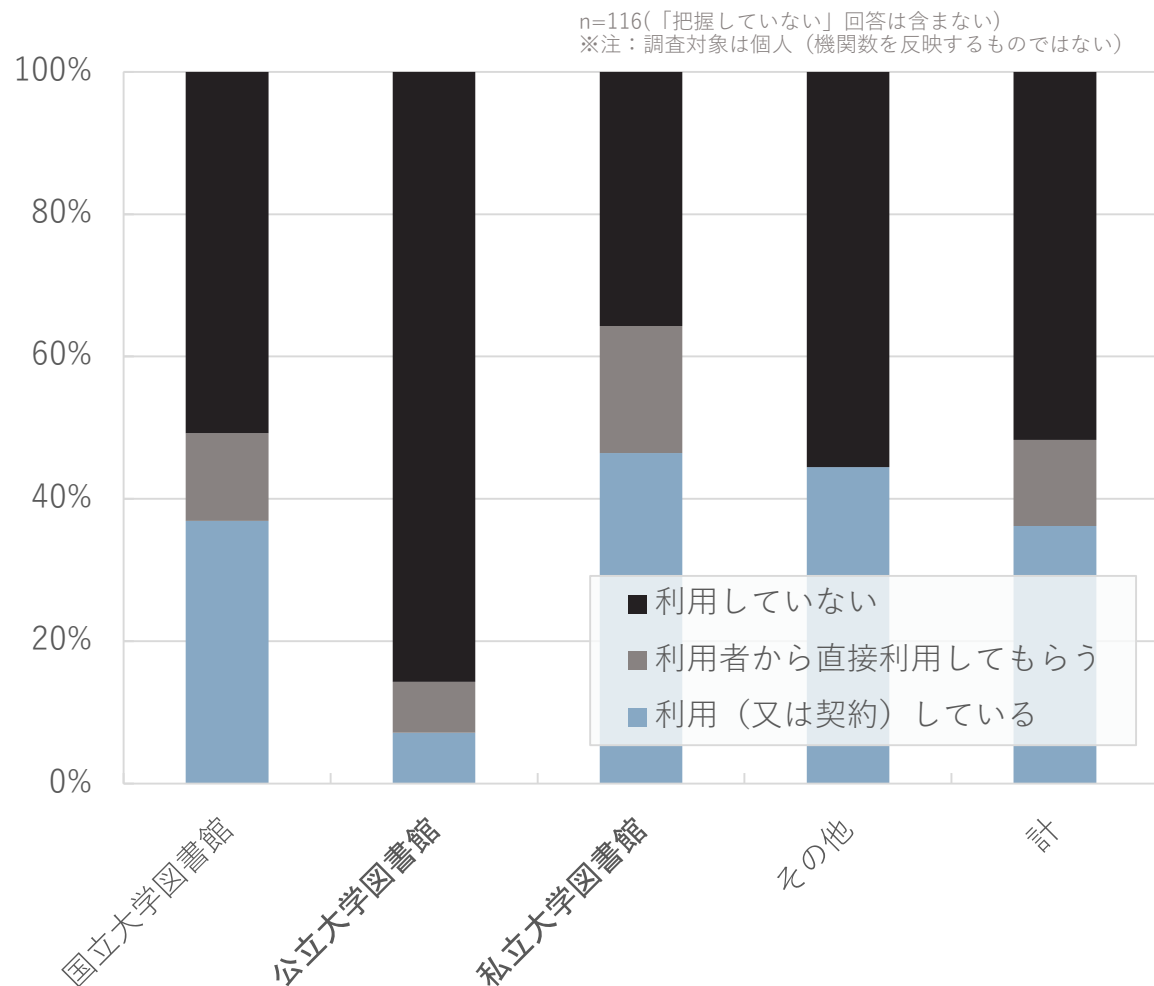
# 導入の検討状況 -1.公衆送信サービス



- 事前アンケートでは、導入に前向きな機関の方とそうでない機関の方がそれぞれ2割程度。残りの6割が導入するか決めかねている。
- 費用等の条件により利用は限定的としても、来館できない利用者への救済ルートとして公衆送信の手段は備えておくことが望ましい。

→民間DDS活用の余地？

# 民間DDSの活用 -1.公衆送信サービス



- 民間DDS活用の余地  
[Reprints Desk(ユサコ株式会社),  
ARROW(株式会社サンメディア)]  
【図書館を強化する学術ソリューション】
  - 自機関の所蔵資料に限定されない。
  - 著作権処理済みの電子的なDDSも。
  - 海外依頼の代行として。
- 事前アンケートでは、半数近くが利用していないとの結果。公衆送信サービスを代替するものではないが、導入が難しい機関にとってはひとつの選択肢として期待。





## 2.非来館型文献アクセス

# 非来館型文献アクセス

「学内eDDS・前払いPPVの事例報告」（大阪大学・荒木様）  
【事例報告（ライトニングトーク）】

- ラストワンマイルの解消  
同じ構内であっても研究/授業等と開館時間の兼ね合いで来館利用がしにくいケースがある。
- 非購読資料へのアクセス支援  
為替の影響もあり購読タイトルの見直しは今後も課題。  
セーフティネットの必要性。



### 3.非介入型サービス



# 非介入型サービス

---

- 「図書館等公衆送信サービス」は事務負担の大きさが懸念されているが、従来のILLや他の非来館サービスにも図書館員の手続きを要するものが多い。電子ジャーナルのようにアクセス毎に人の仲介を要さない提供方式も拡充できるのが望ましい。

Article Galaxy Scholar(ユサコ株式会社)

【図書館を強化する学術ソリューション】





## 4.包括的アクセス費用管理

# ILLは今後も公衆送信の対象外か？

## -4.包括的アクセス費用管理

---

- 民間ソリューションや非来館型サービスを組み合わせることでも、文献提供手段を拡充することは可能。
- では、「図書館等公衆送信サービス」には対応しなくてよいか。ILLへの非適用は続くのか。

→社会的な需要や海外の事例からもILLへの適用は時間の問題？

# 包括的アクセス環境の提供

## -4.包括的アクセス費用管理

---

- 所蔵からアクセスへ

”資源共有の新しい考え方には、**伝統的な資料と電子文献を統合的に提供しようという考え方**も含まれている。(中略)

そのイメージのひとつは例えば、**利用者はひとつの統合的なインタフェースを介して自  
図書館所蔵文献にも、他図書館所蔵文献にも、また商用情報サービスやインターネット  
上のその他の情報資源にも(国境を越えて)アクセスできる**というものであり、”  
(石井,1999)

→ディスクバリーや文献DBの普及で発見できる資料は増加

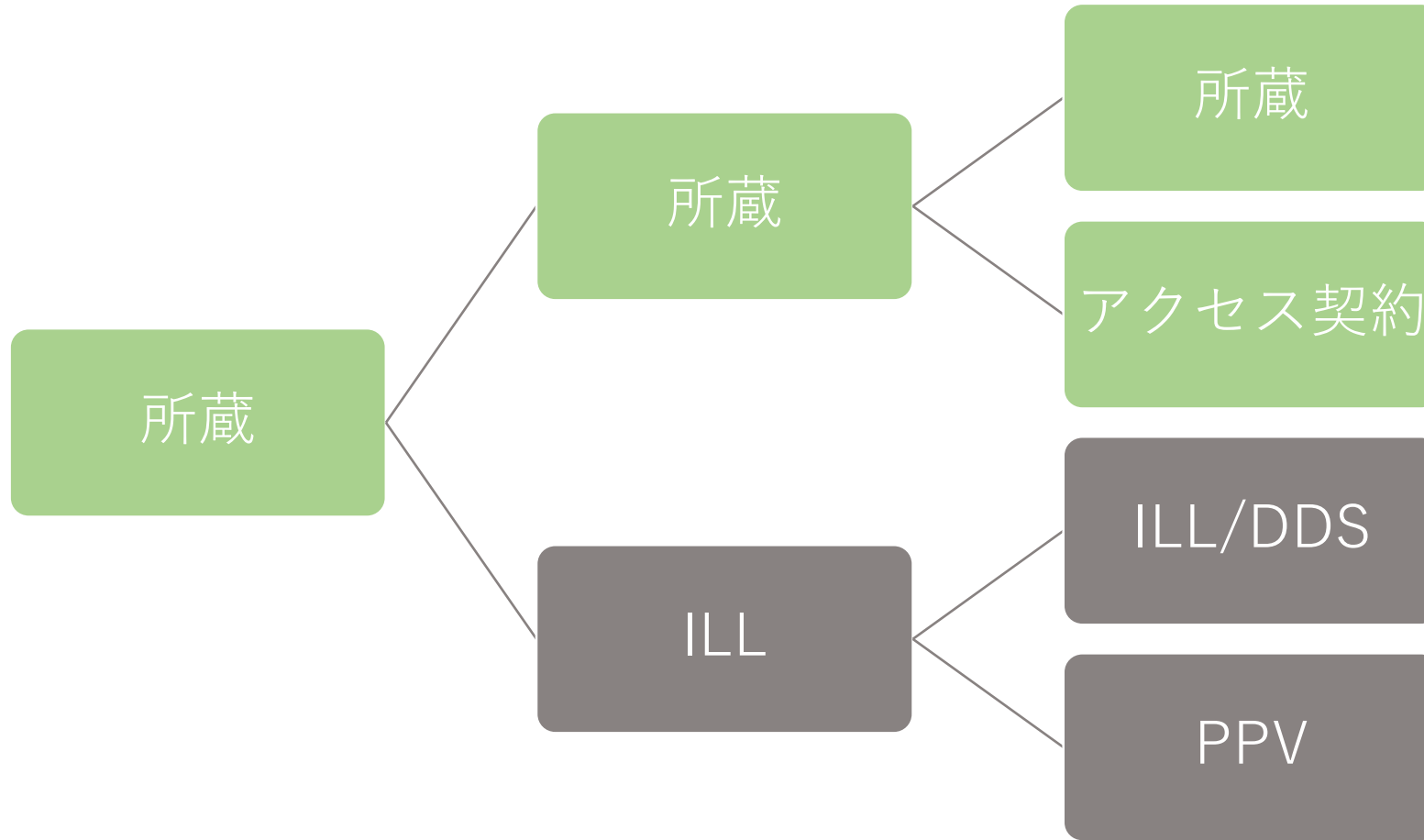
→費用の壁で見つけてもアクセスできない資料も多い

# アクセス方法と費用負担

## -4.包括的アクセス費用管理

図書館から提供

受益者負担



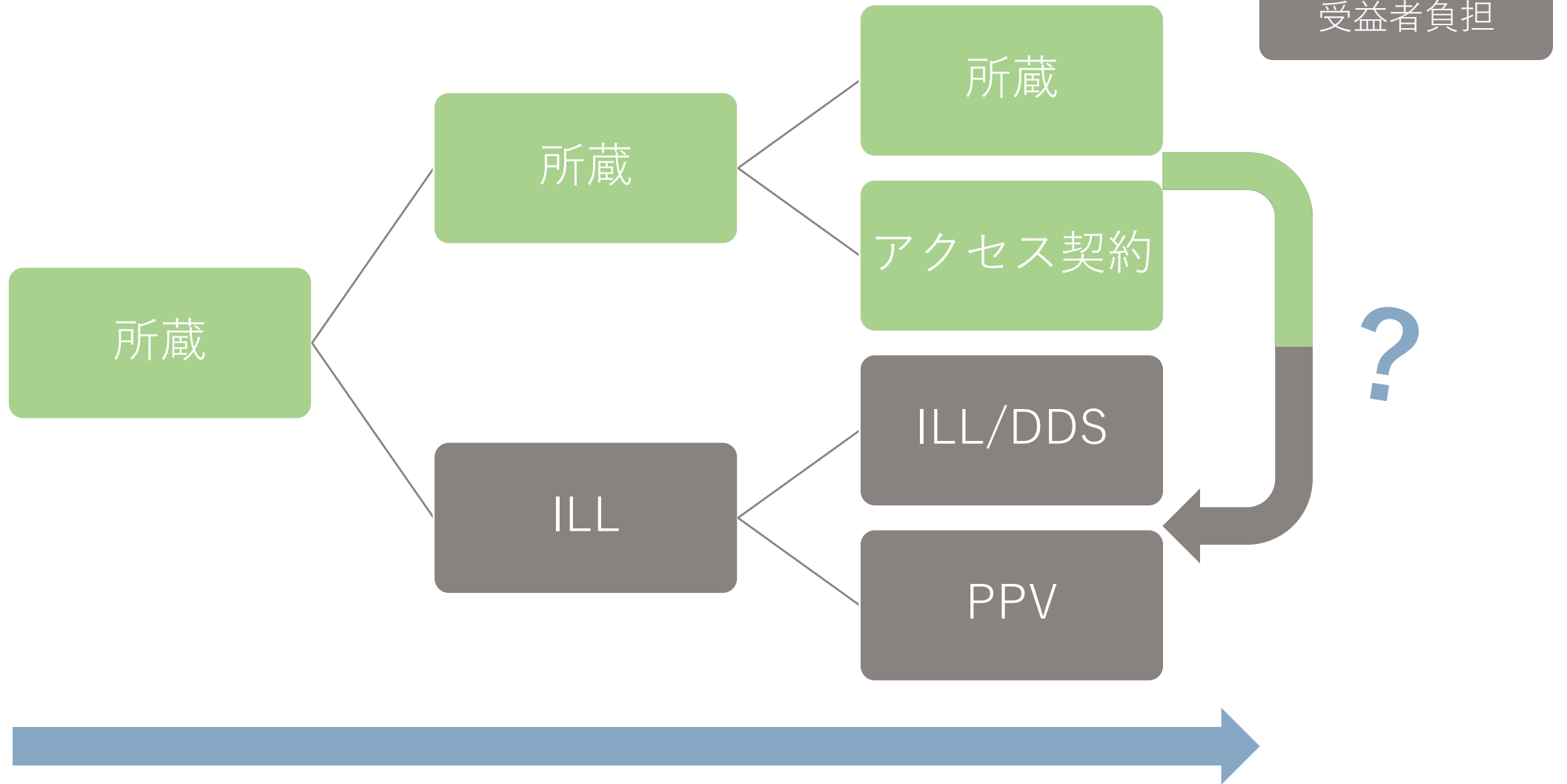
時代





# アクセス方法と費用負担

## -4.包括的アクセス費用管理



# アクセスポリシーから考える

## -4.包括的アクセス費用管理

---

”現在のILL サービスでは、アクセス・ポリシー（あるいは資源共有ポリシー）によって所有されなくなった資料の利用者（例えば、その組織の中ではマイナーな領域の研究者）は、ILLによって文献を入手しその費用は自分の研究費などから支払うことになる。一方、所有されている資料の利用者は、その資料の所有費用は図書館によって負担されているので、余分な費用負担なしに利用できる、しかし、このような費用負担の不公平な状況では、アクセスによる利用を拡大することは難しい。**アクセス・ポリシーのもとでは、資料の購入の代わりにアクセスを利用するので、アクセスの費用は、個々の利用者が支払うべき費用ではなく、図書館サービスの一部として組織全体で一括して支払うべき共通的な費用として扱う必要がある。**”（石井,1999）

→ある種のPDA(Patron-Driven Acquisition)  
(Patron-Driven Access)

# ILLの費用支援

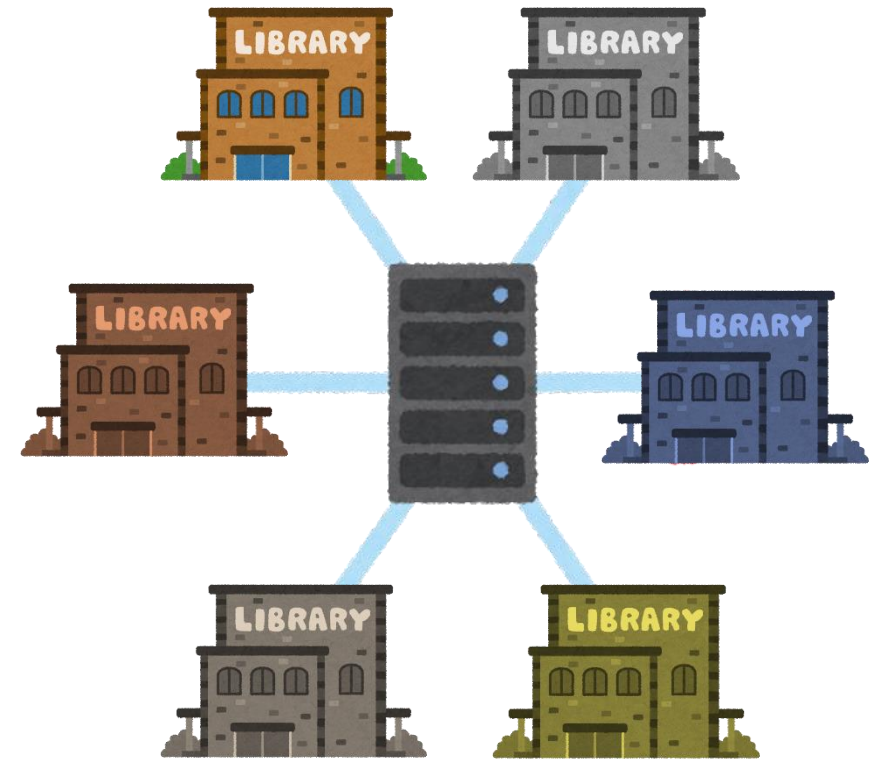
## -4.包括的アクセス費用管理

---

- ILL無償化で依頼数が顕著に増加した報告がある。(土田,2021)
- 上記報告では学生からの依頼増加が著しい。  
受益者負担で依頼されるのは未読の状態での必要性が認知されているデマンド資料、無償化は必要性が未知なニーズ資料へのアクセスを助け研究の質に資する。研究予算を持たず、未読の状態での必要性を判断しにくい学生にとって特に有効？

「学生を対象としたILL費用支援の取り組み」 (滋賀大学・野村様)  
【事例報告 (ライトニングトーク)】





## 5. ILLプラットフォームの強化

# ILLプラットフォームの強化

---

- ILLの費用支援は、利用者サービスに資する。  
→課題は、財源確保や依頼増加に伴う業務負担。ただし、金銭管理等省略される業務もあり、業務負担の増減はサービス設計に左右される。
- 特定図書館の運用を含め利用者のメリットになるサービスを展開していくことは、コストと業務負担の増加と隣り合わせ。  
従来の業務を技術・体制の両面から改善していく必要がある。

「次期ILLシステムの検討議論について」 (東北大学・佐々木様)  
【話題提供】



## 6.大学図書館間の効果的な連携

# 合理化のための条件

## -6.大学図書館間の効果的な連携

---

- 組織を超えて展開されるILLを合理化できるかどうかは参加集団が合理的に手続きの**標準化**に合意していく必要がある。  
例えば、料金設定。

### <価格自由化の弊害>

現行は各機関で1枚当たりの料金を自由に設定できる。

- 費用の内訳が不透明なため価格差に合理性が無い
- 依頼者への費用不透明性につながる
- 数十円のために料金の確認作業が発生

システムで料金を確認しやすくできれば解決できるか？

# システムだけでは解決できない課題

## -6.大学図書館間の効果的な連携

---

- システムで料金を確認しやすくできれば解決できるか？
  - 効果は限定的
  - 価格を標準化できれば、**料金概算事前確認機能**や**依頼先自動選定機能**を実装できる余地が生まれる
- マクロな視点に立てば、価格等受付条件の標準化は、依頼者と業務担当者双方に恩恵がある
- いきなりすべての機関でそれをしていくのはハードルがある？  
まずは限られた範囲でILL合理化のためのコンソーシアムを作ることにも考えられる。

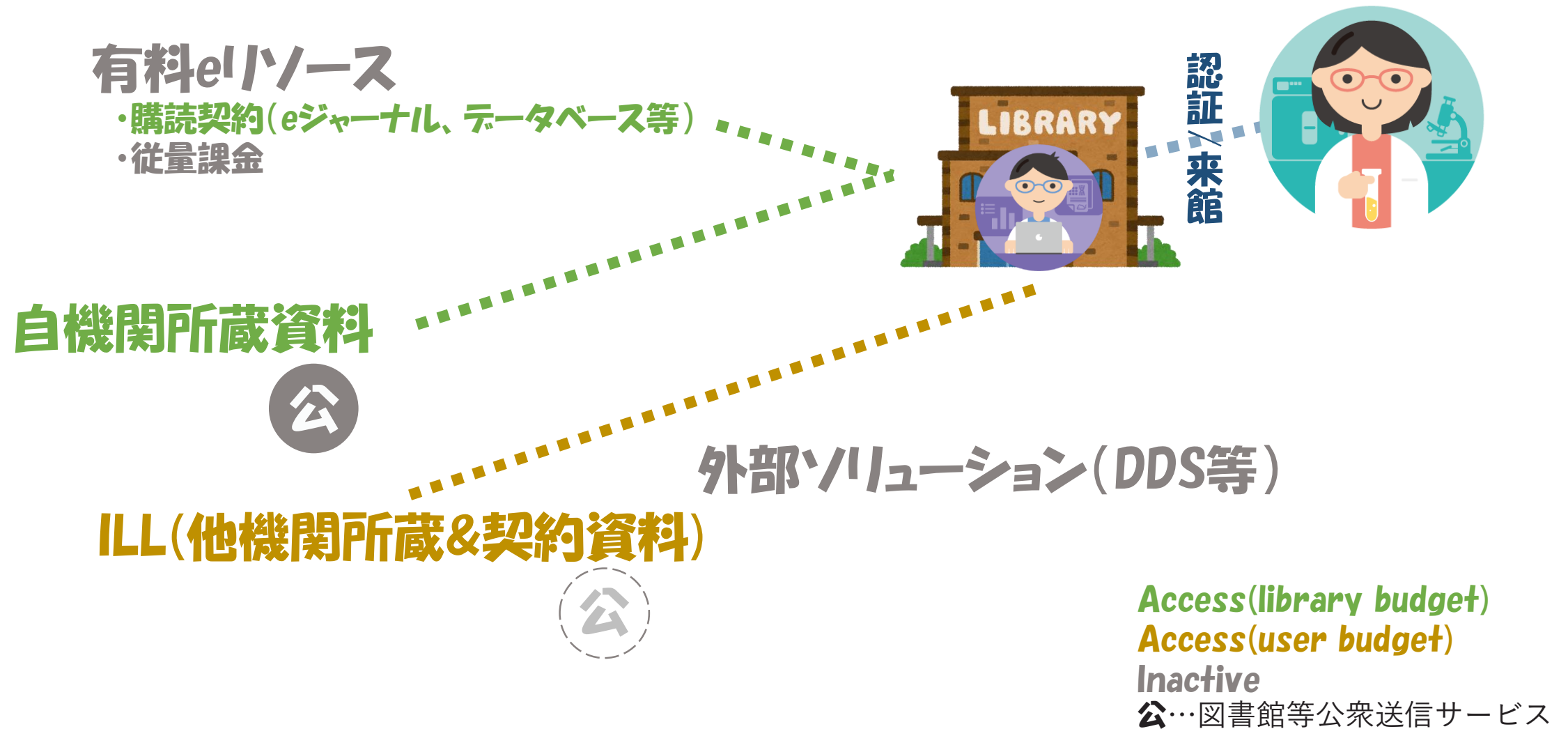
コミュニティベースのILL支援ソリューション[RapidILL(Ex Libris社)]  
【図書館を強化する学術ソリューション】



## 7.ILL/DDサービスの最適化

# アクセスインテグレーションモデル

-7.ILL/DDサービスの最適化



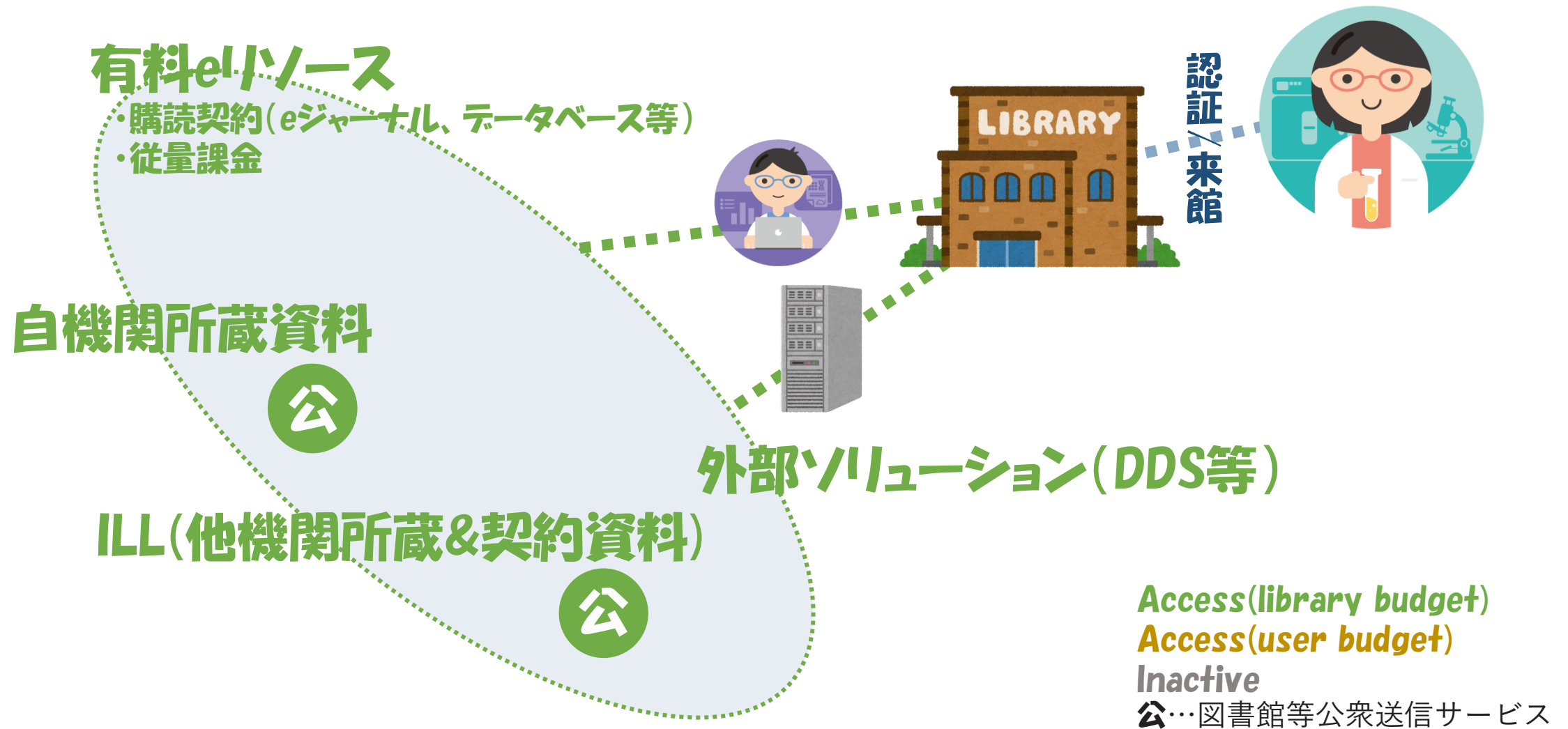
# アクセスインテグレーションモデル

-7.ILL/DDサービスの最適化



# アクセスインテグレーションモデル

-7.ILL/DDサービスの最適化



# ILL/DDサービスの最適化

---

- 本フォーラムでは、民間ソリューションに加え、ILL無料化やeDDSといったピースを紹介しつつ、今後のILLシステムのイメージを共有することで統合的な資料アクセス環境のビジョン形成を目指す。
- 特にILLの合理化には機関を超えて課題共有の場を持ち、合意形成を図っていく必要があるので、その契機としたい。

この後の講演では、ZoomのQ&A機能よりみなさんのご意見/ご質問をお寄せください。今後のアクセス環境提供のためのヒントをひとつでも多くお持ち帰りいただければ幸いです。



# 参考文献 / スペシャルサンクス

---

## <参考文献>

- 石井啓豊 (1999). 資源共有の新展開と ILL/DD サービスの展望. 情報の科学と技術, 49(8), 378-386. Accessed 2023-01-25. doi: 10.18919/jkg.49.8\_378.
- 土田大輔 (2021). ILL 文献複写サービスの無料化がもたらしたもの. 図書の譜: 明治大学図書館紀要, 25, 83-92. Accessed 2023-01-25. <http://hdl.handle.net/10291/21696>
- 文部科学省 (2022). 図書館等公衆送信サービスの実施予定等に関する調査結果. 日本図書館協会ウェブサイト. 2022-09-09. Accessed 2023-01-25. <https://www.jla.or.jp/committees/chosaku/tabid/946/Default.aspx>

## <イラスト関係>

- うりこ (神戸大学附属図書館公式キャラクター)
- いらすとや
- 統合TV  
[The image of “A scientist at the bench” & “A scientist at the desk” is from TogoTV (© 2016 DBCLS TogoTV, CC-BY-4.0 <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>)]



# 関連イベント資料

---

## ▼平成29年度国立大学図書館協会近畿地区事業

『文献入手スキルアップセミナー：文献入手のプロとして学術情報流通の今とこれからを知る』

- 講演「総論－ILLによる文献提供の変化」 講師：藤江雄太郎（神戸大学附属図書館）  
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90004477>
- 講演「電子ジャーナルとILL」 講師：西脇亜由子（明治大学図書館・JUSTICE作業部会委員）  
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90004478>
- 講演「オープンアクセス・論文共有時代の文献提供」 講師：大園隼彦（岡山大学附属図書館）  
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90004479>
- ミニ講義「DDSについてのおさらい」 講師：藤江雄太郎（神戸大学附属図書館）  
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90004480>
- 「パネルディスカッション」 パネリスト：西脇亜由子、大園隼彦、藤江雄太郎 / 司会：磯谷峰夫  
<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90004481>